

## 達成度の説明

成果指標 は、入学生数と卒業生数の比較を示しているが、平成18年度においては、全国平均(平成18年度3年課程養成所)90.3%より、12.8ポイント低い結果であり、達成度は低かった。学習習慣が身につけていない学生の場合は、怠学による退学に至るケースもあるが、生涯学習を続けなくてはならない重圧感や、臨地実習で患者や指導者等未知の人との遭遇に対する不安感が引き金となり、退学志望に至ったのではないかと推測する。しかし、確かな原因はつかめておらず、退学志望者を翻意させることは、非常に困難である。

成果指標 は国家試験の合格比率である。国の方針は、90%の合格率を基準としているが、本校においては、平成18年度、平成19年度とも国の基準を上回っている。これは、開学以来蓄積したノウハウを生かし、細やかな国家試験対策を行っている成果だと判断する。

成果指標 は、教育活動の時間数を示す。国の定めた最低基準時間数に特別講義や行事等の時間を加えて、教育計画を立案しているが、平成18年度、平成19年度ともに、1%台の過剰はあるものの基準を満たしている。看護師は生涯にわたり、自己研修が求められる職業であるが、国家試験においても、最新の保健・医療についての分野の出題が見られる。また、看護実践能力の修得を時代が強く求められるようになってきている。そのため、最新の医療・看護の知識や技術に関する講義や演習を補充・強化している。このことは、教育活動の観点から評価できる。

成果指標 の行政指導は、法令や教育方針・理念を遵守しているため、国および愛知県からの教育内容に関する指導は皆無であり、評価できる。(なお、法に基づき、毎年、教育内容は国に報告している)

成果指標 は教員の専門分野の研修のために要する費用の公費負担率である。平成18年度、平成19年度ともに達成率は、ほぼ20%であり、学会経費の自己負担率が非常に高く、極めて低い達成率であった。教員の研修については、看護師等養成所の運営に関する指導要領に、「専任教員は、専門領域における教授方法の研修や、看護実践現場での研修を受けるなどにより、自己研鑽に努めること(第四-1(12))」、「管理および維持経営に関する事項」には「教育環境を整備するために必要な措置を講じていること(第八)」が記されている。さらに、看護師等養成所の運営に関する手引きでは、「専任教員の研修費等を計上すること。(第九)」と記されているが、その公費での実施は最低限度に留まっているのが実情である。

なお、教員の学会等の発表は年間2件に留まっている。教員の研究活動については、「看護師等養成所の教育活動に関する自己評価指針(平成15年7月)」において、研究活動に関する評価の指標として「研究的姿勢の涵養(学会・誌上発表等)」、「教員の研究活動の保障」が掲げられている。しかし、この指針からみても、教育活動に関する経済的な支援が極めて低い状態であることから、保障が不十分であるといえる。

また、研究活動を行うには、研究時間が確保されていることが条件である。しかし、(この評価表ではデータを提示していないが)学生の指導と授業準備に多大な時間を要し、自己の研究活動に時間を割くことはかなり厳しい現状がある。

以上、成果指標 から の順にみてみたが、 と の達成度は低いが、 ・ ・ は達成できているため、総合評価は「2」とであると判断する。

## 経済効率性の説明

成果指標 の卒業率が8割を切っていること、退学率が9～10%であることは、一人当たりの養成費用を高騰させるものであり、退学に至るまでの学生に対する個別指導にかかる時間と手間も多大となるため、経済効率性は悪いと言える。職業教育であるため、志が高く、職業適性のある者を選考し、途中で怠学・退学を防ぎ、学習意欲を保持・亢進させるようにしなくてはならないと考える。そのため、入学試験方法の工夫などを行っているが、まだ成果が出ていない。

成果指標 の国家試験の合格比率達成度は、100%を超え、 の行政指導も皆無であることから、教育内容については、十分な成果が得られているので経済効率性はもよいといえる。しかし、教員達が国家試験の傾向と対策を十二分に行っている裏づけのもとに達成していることを考えると、計上していない莫大な時間と手間がある。経済効率性をより高めるためには、学生の自発性をもっと高める必要があると考える。

成果指標 の教育活動は、達成しているが、経済効率性の観点からはやや非効率であるといわざるをえない。外部講師の選定については、様々な制約により質の担保において問題を孕んでいる。専門基礎分野では他分野と比して、経済効率性は格段に低い状態にある。特に看護学を学ぶ上で基礎となる疾患学については、医師に委ねざるをえないが、隣接する市民病院の医師確保が困難な状況から、4～6時間といった細切れな講義の形で依頼をせざるをえず、また、診療の合間の講義であることから、遅刻、早退、途中呼び出しなどでの中断もあり、授業成果が不十分な状況である。そのため、教員による時間外の補充学習を余儀なくされている。また、授業内容の重複や欠落も生じやすいため、授業内容の調整を要する。教員の業務は、教育活動時間に反映されない調整や補充学習にかかわる時間数も多く、経済効率性からみると問題である。

なお、最新の看護技術については、最新の看護用具や医療機器を具備している団体やメーカーに講義を依頼し、費用対効果を上げる努力をしている。さらに、特別講演の講師については、学生が「あの人に会ってよかった」と感動できる一流の講師を選定し、企画するようにしていることは、数字の上では計り知れない費用対効果を生んでいると考える。

成果 の教員の研究活動については、経済的にも時間的にも自己負担比率が高いため、適切な評価ができない。しかし、教員は自発的な研修姿勢を強く持ち、各々が自己投資し、自己研鑽に励んでいることは評価できる。